

兵庫教育大学 教職大学院 『教育実践高度化専攻』

(小学校教員養成特別コース)

実習基本計画

令和8年4月

目 次

実習生としての心得

実習の基本計画（小学校教員養成特別コース）

【3年制コース】

1	実習の目的	1
2	実習科目	1
3	実習校（連携協力校）	1
4	科目別の実習内容，指導体制，評価方法等	1
5	実習資料の様式	9

【2年制コース】

1	実習の目的	35
2	実習科目	35
3	実習校（連携協力校）	35
4	科目別の実習内容，指導体制，評価方法等	35
5	実習資料の様式	43

	小学校教員養成特別コースにおけるカリキュラム配置モデル	67
--	-----------------------------	----

実習生としての心得

【 実習に対して 】

1. 身だしなみと言動

- ・ 服装や髪型は、幼児、児童・生徒への影響を考え、教師をめざす実習生らしいものとする。
- ・ 乱暴な言葉使いや粗暴な態度はしないこと。

2. 意欲と態度

- ・ 実習期間中は、熱意をもって意欲的な態度で取り組むこと。

3. 専念

- ・ 実習期間中は実習に専念し、部活動やアルバイト等を行わないこと。

4. 指導教員からの指導や助言

- ・ 実習先の指導教員からの指導や助言、忠告に対しては、快くこれを受け入れること。

5. 健康管理

- ・ 健康には十分留意し、節度ある生活を行うこと。

6. 時間管理

- ・ 出勤時刻や提出物の期限等は、必ず厳守すること。

7. 守秘義務

- ・ 実習を通じて知り得た情報は、SNSを含め絶対に外部に漏らさないこと。

8. 喫煙

- ・ 実習先では喫煙しないこと。

【幼児、児童・生徒に対して】

1. 態度

- ・幼児、児童・生徒の前では実習生間の私的な会話を慎み、絶えず教育者としての態度で接すること。

2. 私的な交流

- ・幼児、児童・生徒との私的な交流（SNS、電話、メール、自宅への訪問、物品等の受け渡し等）はしないこと。

3. 体罰や暴言

- ・幼児、児童・生徒への体罰や暴言は絶対にしないこと。

4. 健康管理や安全指導

- ・幼児、児童・生徒への健康管理や安全指導に特に留意すること。

5. 実習先以外での接触

- ・実習先の指導教員の許可なく、実習先の外へ幼児、児童・生徒を引率したり、呼び出したりしないこと。

【実習校に対して】

1. 実習時間

- ・実習の開始時間や終了時間は、実習先の勤務時間や勤務形態に合わせて行うこと。

2. 病気等による欠席

- ・無断欠席は絶対にしないこと。
- ・病気等により、やむを得ず欠席する場合は、速やかに実習先の指導教員に必ず連絡すること。

3. 物品等の使用

- ・実習先の許可を得て使用し、使用後は責任をもって後片付けをすること。
- ・実習先のパソコンを使用させてもらう場合は、ウィルス感染防止のため、勝手に私物のUSBメモリ等を接続しないこと。

4. 書類等の持ち出し

- ・実習先の許可を得ずに、書類や物品等を実習先の外に持ち出さないこと。

実習の基本計画（小学校教員養成特別コース）

【3年制コース】

1 実習の目的

本コースの実習科目(4科目)を履修することによって、自己の専門性を活かしながら小学校教員として必要な実践的な指導力及び展開力を身につけるとともに、絶えず実践を省察し、自己の実践的な指導力及び展開力の向上を図ることができる探究力や改善力を形成する。それによって、新しい学校づくりの担い手として高い期待に応えうる小学校教員を養成することを目的とする。

2 実習科目

実習科目	単位数	配当年次	実施期間
実地研究Ⅰ（基本実習）	4単位	2年次	11月～12月
実地研究Ⅱ（発展実習）	6単位	2年次	12月～1月
実地研究リフレクションセミナー	2単位	2年次	11月～1月
インターンシップ	2単位	3年次	通年（60時間以上）

3 実習校（連携協力校）

実習科目	実習場所
実地研究Ⅰ（基本実習）	連携協力校（小学校）
実地研究Ⅱ（発展実習）	連携協力校（小学校）
インターンシップ	連携協力校（小学校）

4 科目別の実習内容、指導体制、評価方法等

実地研究Ⅰ（基本実習）

（実習内容）

4週間の教育実習を通して、(1)公立小学校の教育全般について実地に学び、教科指導、特別活動や総合学習の指導に必要な内容・方法及び教育技術を修得する。また、(2)配属学級の指導教諭の教育活動をAT（アシスタント・ティーチャー）として支援・援助しながら、保護者や地域からのニーズや課題に応じた特色ある教育実践がどのように行われているのか理解することを目的とする。

7～8月に大学でオリエンテーションを行い、その後実習校での事前指導を実施する。その際、大学の修学指導教員（以下、大学指導教員と記す）及び実習校の実習指導教諭（以下、メンターと記す）と大学院生とが協議を行い、個別実習計画を作成する。

11月からの実習では公立小学校の教育全般について実習するが、実習中は配属学級のメンターのAT（アシスタント・ティーチャー）として支援・補助しながら、個別実習計画に基づいて教科指導等の実習を行う。

実習は週4日行い、週1日は大学に戻り「リフレクションセミナー」を通して、4日間の実習で得た成果を省察する。

各週の大きな実習内容は、以下のとおりである。

第1週：教科指導，特別活動，総合学習のATとして観察又は補助

第2週：教科指導の実習，特別活動と総合学習のATとして補助

第3週：教科指導の実習，特別活動と総合学習のATとして補助

第4週：教科指導の実習，研究授業の実施，特別活動と総合学習のATとして補助

(指導計画・体制)

- ・実地研究Ⅰの実習担当教員(以下、担当リーダーと記す)を1名置く。担当リーダーは、実地研究Ⅰの全体の企画・運営を担当し、大学院生に対して、事前・事後の全体指導を行う。
- ・大学指導教員は、担当した大学院生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・原則として大学指導教員1名が実習校2校を担当する。
- ・実習校にメンターを依頼する。
- ・担当リーダーと大学指導教員、メンターの三者が緊密に連携を取り、実習を進める。
- ・各担当の大学院生の個別実習計画については、大学指導教員とメンターと大学院生が協議しながら作成する。
- ・大学指導教員は、実習校に訪問指導を行う。訪問指導では、大学院生の授業や実践の観察を行った後、メンター、大学指導教員、大学院生の三者によるチームコンサルテーションを実施する。
- ・大学院生の成績評価は、実習評価票に基づいてメンターと大学指導教員が共同で行う。
- ・週1日は、大学においてその週の実習の成果を省察する。省察では、大学指導教員が中心となって大学院生を指導し、実習終了後に、リフレクション・レポートを作成させる。作成したリフレクション・レポートは、メンターへポートフォリオとして提出し点検を受けた後、大学指導教員に、個別実習計画や学習指導案等を含めて、一括してファイルに綴じて提出する。その際、授業記録を保存したDVD等があれば添付すること。

(準備・進め方)

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・実習における学修目標及び実習の実施計画
- ・実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及びメンターの承諾

- ・教育実習総合センターのコーディネーターは、教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・大学指導教員と大学院生、教育実習総合センターのコーディネーターが、実習校を訪問し、理解と承諾を得るとともに、事前の打合せを行う。

(3) 各種様式等の作成

- ・ 個別実習計画
- ・ 学習指導計画（週運営計画表） 4週間分
- ・ 実習日誌（16日分）
- ・ 学習指導案（授業実習を実施したすべての学習指導案）
- ・ チームコンサルテーションの記録
- ・ 総括レポート

これらを「実地研究Ⅰ 実習記録／ポートフォリオ」としてまとめる。

（評価方法）

実習日誌は、毎日記入し、メンターへ提出すること。その際に、メンターの指導内容を大学院生自身が記録し、実習日誌に大学院生が記載する。つまり、実地研究では、メンターの助言や指導に関する文言はすべて大学院生が記載することになる。実習終了後、1週間以内に大学へ実習記録として提出をすること。

大学院生の成績評価は、次の七項目の評価観点に基づいて、メンター（70%）と大学指導教員（30%）が共同で行う。評定は、以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

大学指導教員は、実習校への説明時に、評価票をメンターに手渡すこと。メンターには、1週間以内に大学に郵送してもらうこととする。

- (1) 教職意識
- (2) 児童理解力
- (3) コミュニケーション力
- (4) 計画力・教材研究力
- (5) 学習指導力
- (6) 評価力
- (7) 実習記録

実地研究Ⅱ（発展実習）

（実習内容）

6週間の教育実習を通して、(1)実習校における教科指導、特別活動及び総合学習の指導に加えて、道徳、生徒指導、特別支援教育の実践にも関わり、それらの内容・方法及び教育技術を修得する。また、(2)自己の得意教科（大学院生は、1ないし2教科を得意教科として位置づける）の指導力を高め、(3)一定期間、配属学級の学級担任業務を担うことによって、小学校教員としての自立に向けた実践的指導力を養うことを目的とする。

7～8月に、実地研究Ⅰに関する大学でのオリエンテーションとあわせて、実地研究Ⅱのオリエンテーションも行い、実習校での事前指導も実地研究Ⅰにあわせて同時に実施する。

その際、大学指導教員及びメンターと大学院生とが協議を行い、実地研究Ⅰとあわせて実地研究Ⅱについての個別実習計画を作成する。

実習は、実地研究Ⅰと同一校において、教科指導、特別活動、総合学習の指導に加えて、道徳、生徒指導、特別支援教育、学校事務についてもAT（アシスタント・ティーチャー：副担任）として関わり、6週間の実習を行う。

実習内容は、メンター、大学指導教員、大学院生の三者が事前に協議をして設定するが、その際に以下の点を踏まえることとする。

- ・原則として、教科指導は一通り全ての教科の授業を行う。
- ・教科指導のコマ数は、実習校の実態に合わせて、メンターと相談をして決める。
- ・得意教科の授業を継続して行う。
- ・実習の第4週目から徐々に学級担任業務を担当し、第5週目には、1週間、終日で学級担任業務を行う。学級担任業務とは、朝の会・終わりの会の運営、給食、休憩、昼休み、放課後、清掃等の指導全般である。ただし、学級通信の作成や日記指導、保護者への対応等、保護者に直接関わるような指導は含まない。
- ・道徳の授業を2コマ行う。
- ・原則として、最終週に研究授業を行う。

実習は週4日行い、週1日は大学に戻り「リフレクションセミナー」を通して4日間の実習で得た成果を省察する。

各週の大まかな実習内容は、以下のとおりである。

第1週：教科指導の実習、特別活動と総合学習の指導への参加

（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

第2週：教科指導の実習と道徳の授業の実習、特別活動と総合学習の指導への参加

（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

第3週：教科指導の実習、特別活動と総合学習の指導への参加

（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

第4週：教科指導の実習と道徳の授業の実習、1日学級担任実習（1日）

第5週：1日学級担任実習

- ・メンターが担当している教科及び道徳などの授業実習を含む。
- ・専科の授業は含まない。専科の授業の時は、学級事務の時間とする。

第6週：教科指導の実習、得意教科による研究授業の実施、特別活動と総合学習の指導への参加（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

（指導計画・体制）

- ・実地研究Ⅱの担当リーダーを1名置く。担当リーダーは、実地研究Ⅱの全体の企画・運営を担当し、大学院生に対して、事前・事後の全体指導を行う。
- ・大学指導教員は、担当した大学院生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・原則として大学指導教員1名が実習校2校を担当する。
- ・実習校にメンターを依頼する。

- ・担当リーダーと大学指導教員，メンターの三者が緊密に連携を取り，実習を進める。
- ・各担当の大学院生の個別実習計画については，大学指導教員とメンターと大学院生が協議しながら作成する。
- ・大学指導教員は，実習校に訪問指導を行う。訪問指導では，大学院生の授業や実践の観察を行った後，メンター，大学指導教員，大学院生の三者によるチームコンサルテーションを実施する。
- ・大学院生の成績評価は，実習評価票に基づいてメンターと大学指導教員が共同で行う。
- ・週1日は，大学においてその週の実習の成果を省察する。省察では，大学指導教員が中心となって大学院生を指導し，実習終了後に，リフレクション・レポートを作成させる。作成したリフレクション・レポートは，メンターへポートフォリオとして提出し点検を受けた後，大学指導教員に，個別実習計画や学習指導案等を含めて，一括してファイルに綴じて提出する。その際，授業記録を保存したDVD等があれば添付すること。

(準備・進め方)

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・実習における学修目標及び実習の実施計画
- ・実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及びメンターの承諾

- ・教育実習総合センターのコーディネーターが，教育委員会を訪問して説明し，あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・大学指導教員と大学院生，教育実習総合センターのコーディネーターが，実習校を訪問し，理解と承諾を得る。

(3) 各種様式等の作成

- ・個別実習計画
- ・学習指導計画（週運営計画表） 6週間分
- ・実習日誌（24日分）
- ・学習指導案（授業実習を実施したすべての学習指導案）
- ・チームコンサルテーションの記録
- ・総括レポート

これらを「実地研究Ⅱ 実習記録／ポートフォリオ」としてまとめる。

(評価方法)

実習日誌は，毎日記入し，メンターへ提出すること。その際に，メンターの指導内容を大学院生自身が記録し，実習日誌に大学院生が記載する。つまり，実地研究では，メンターの助言や指導に関する文言はすべて大学院生が記載することになる。実習終了後，1週間以内に大学へ実習記録として提出をすること。

大学院生の成績評価は，次の11項目の評価観点に基づいて，メンター（70%）と大学指

導教員（30％）が共同で行う。評定は、以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

大学指導教員は、実習校への説明時に、評価票をメンターに手渡すこと。メンターには、1週間以内に大学に郵送してもらうこととする。

- (1) 教職意識
- (2) 児童理解力
- (3) コミュニケーション力
- (4) 計画力・教材研究力
- (5) 学習指導力
- (6) 評価力
- (7) 学級経営力
- (8) 生徒指導力
- (9) 自己改善力
- (10) 連携・協働
- (11) 実習記録

実地研究リフレクションセミナー

（指導計画・体制）

- ・大学指導教員が、担当している大学院生をゼミ形態で指導する。
- ・週1日（原則として金曜日とする）、大学においてその週の実習の成果を省察する。
- ・大学院生の成績評価は、実習評価票に基づいて、大学指導教員が行う。

（準備・進め方）

- (1) 週運営計画を用いて、月曜日から木曜日までのリフレクションをする。
- (2) 次の週の予定を週運営計画で確認する。
 - ・大学指導教員は、2週分の週運営計画を書いているかを確認する。
- (3) 次の週に実施する授業実習の学習指導案を確認する。
- (4) 大学院生は、学習指導案をもとに、授業内容を説明する。
 - ・大学指導教員は、学習指導案の書き方や内容について助言を行う。
- (5) 実習校やメンターからの依頼や連絡はないかを確認する。
- (6) 大学指導教員は、次週に訪問指導がある場合、訪問日時を確認する。
- (7) 実地研究Ⅰ及びⅡで提出する各種様式等の作成の進捗状況を確認する。

（評価方法）

大学院生の成績評価は、次の五項目の評価観点に基づいて、大学指導教員が行う。評定は、以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C

(60点～69点) , F (59点以下) の5段階とし, SからCまでを合格, Fを不合格とする。

- (1) リフレクションセミナーへの参加態度
- (2) 教職意識・小学校教員としての成長度
- (3) 大学院生の実習成果
- (4) 実習記録
- (5) 総括レポート

インターンシップ

(実習内容)

「実地研究Ⅰ・Ⅱ」の成果や課題を踏まえ, 実習校のインターンとして責任を持って教育活動の一端を担い, 小学校教員として自律的に実践的指導力を修得することを目的とする。したがって, 「教育実践研究」との関わりから, 「実地研究Ⅰ・Ⅱ」と同一校において, 実践上の課題解決に向けて積極的に教育活動に参加し, 自己研鑽を積むことになる。

4月より大学でのオリエンテーションと実習校での事前指導を実施する。その際, 大学院生は2年次の「実地研究リフレクションセミナー」で得た成果と課題に基づいて, メンターや大学指導教員と協議しながら期間中の個別実習計画を作成する。例えば, 実習課題としては, 「学級集団づくりに役立つ学校行事の運営方法」や「学級における生活や学習のルール設定の仕方と生徒指導の在り方」, 「つまずき単元における教材研究と発問の在り方」などが考えられるが, なるべく実習課題を焦点化できるようにする。

インターンシップ期間中は, 実習校のインターンとして配属学級の教育活動の一端を責任をもって担い, 通年で60時間以上の教育支援活動を行う。期間中の活動は, メンターの指示や指導の下, 当該学級にとっても大学院生にとっても有益な活動になるように努める。ただし, 6月下旬から7月末までの期間は, 教員採用試験の時期と重なるため, 計画に組み込まないように配慮する。

活動後は, 大学院生が毎回日誌を記入し, メンターへ提出して指導を受ける。また, インターンシップで得た活動の成果は, 大学での「教育実践研究」において, 大学指導教員へ報告する。

(指導計画・体制)

- ・インターンシップの担当リーダーを1名置く。担当リーダーは, インターンシップの全体の企画・運営を担当し, 大学院生の全体指導を行う。
- ・大学指導教員は, 担当した大学院生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・実習校にメンターを依頼する。
- ・担当リーダーと大学指導教員, メンターの三者が緊密に連携を取り, インターンシップを進める。
- ・各担当の大学院生の個別実習計画については, 大学指導教員とメンターと大学院生が協議しながら作成する。
- ・大学指導教員は, 大学院生が提出した個別実習計画に基づき適宜訪問指導を行う。訪

問指導では、大学院生の授業や実践の観察を行った後、メンター、大学指導教員、大学院生の三者によるチームコンサルテーションを実施する。

- ・大学院生の成績評価は、実習評価票に基づいてメンターと大学指導教員が共同で行う。

（準備・進め方）

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・実習における学修目標及び実習の実施計画
- ・実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及びメンターの承諾

- ・教育実習総合センターのコーディネーターが、教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・大学指導教員と大学院生、教育実習総合センターのコーディネーターが、実習校を訪問し、理解と承諾を得る。

(3) 各種様式等の作成

- ・個別実習計画
- ・実習日誌
- ・チームコンサルテーションの記録
- ・総括レポート

これらを「インターンシップ実習記録／ポートフォリオ」としてまとめる。

（評価方法）

実習日誌は活動後毎回記入し、メンターへ提出すること。

インターンシップが終了した後（60時間を超えた時点）、1週間以内に大学指導教員に実習記録を提出すること。

大学院生の成績評価は、次の7項目の評価観点に基づいてメンター（70%）と大学指導教員（30%）が共同で行う。評定は以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

大学指導教員は、大学院生からインターンシップの経過報告を受け、終了間際にチームコンサルテーションの機会を設定すること。メンターには、インターンシップが終了した後、評価票を1週間以内に大学に郵送してもらうこととする。

- (1) 実習態度
- (2) 個別実習計画
- (3) 大学院生の実習成果
- (4) 実習校への貢献度
- (5) 小学校教員としての成長度
- (6) 実習記録
- (7) 総括レポート

5 実習資料の様式

(1) 実習の個別計画表

- ・ 実地研究Ⅰ 個別実習計画 様式……………様式(1)-①a
- ・ 実地研究Ⅱ 個別実習計画 様式……………様式(1)-②a
- ・ インターンシップ 個別実習計画 様式……………様式(1)-③

(2) 学習指導計画（週運営計画）・実地研究Ⅰ及びⅡ共通

- ・ 学習指導計画 様式……………様式(2)-①

(3) 実習日誌

- ・ 実地研究Ⅰ 実習日誌（月～水）様式……………様式(3)-①a
- ・ 実地研究Ⅰ 実習日誌（木）様式……………様式(3)-②a
- ・ 実地研究Ⅱ 実習日誌（月～水）様式……………様式(3)-③a
- ・ 実地研究Ⅱ 実習日誌（木）様式……………様式(3)-④a
- ・ インターンシップ 実習日誌 様式……………様式(3)-⑤

(4) チームコンサルテーション

- ・ 実地研究Ⅰ チームコンサルテーション 様式……………様式(4)-①a
- ・ 実地研究Ⅱ チームコンサルテーション 様式……………様式(4)-②a
- ・ インターンシップ チームコンサルテーション 様式……………様式(4)-③

(5) 総括レポート

- ・ 実地研究Ⅰ 総括レポート 様式……………様式(5)-①a
- ・ 実地研究Ⅱ 総括レポート 様式……………様式(5)-②a
- ・ 実地研究リフレクションセミナー 総括レポート 様式……………様式(5)-③
- ・ インターンシップ 総括レポート 様式……………様式(5)-④

(6) 評価票

- ・ 実地研究Ⅰ 評価票 様式……………様式(6)-①a
- ・ 実地研究Ⅱ 評価票 様式……………様式(6)-②a
- ・ 実地研究リフレクションセミナー 評価票 様式……………様式(6)-③
- ・ インターンシップ 評価票 様式……………様式(6)-④

実地研究Ⅰ 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

名 前		学籍番号	
大学院生連絡先	(TEL)		
実習期間	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 (TEL)		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校指導教員 (メンター)			
大学 担当リーダー	(研究室TEL)		
大学指導教員	(研究室TEL)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数：	学級数：	教員数：
教育目標			

特色ある教育の取組			
地域性			
その他特記事項			
大 学 院 生 の プ ロ フ ィ ー ル			
性 別	男性 ・ 女性	年齢	歳
教員免許	有 ・ 無 （免許種： ）		
社会人経験	有 ・ 無 （職種： ）		
資格・特技			
自己アピール			
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標			
第1週			
第2週			
第3週			
第4週			

実習校指導教員（メンター）

大学指導教員

実地研究Ⅱ 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

名 前		学籍番号	
大学院生連絡先	(TEL)		
実習期間	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 (TEL)		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校指導教員 (メンター)			
大学 担当リーダー	(研究室TEL)		
大学指導教員	(研究室TEL)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数： 学級数： 教員数：		
教育目標			

特色ある 教育の取組	
地域性	
その他 特記事項	
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標	
第1週	
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	
第6週	

実習校指導教員（メンター）

大学指導教員

インターンシップ 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

名 前		学籍番号	
大学院生連絡先	(TEL)		
実習期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 (TEL)		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校指導教員 (メンター)			
大学 担当リーダー	(研究室TEL)		
大学指導教員	(研究室TEL)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数：	学級数：	教員数：
教育目標			

特色ある 教育の取組	
地域性	
その他 特記事項	
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標	
実習課題 1	
実習課題 2	
実習課題 3	
実 習 の 実 施 計 画	

実習校指導教員（メンター）

大学指導教員

第 週 年

学 習 指 導 計 画 (月 日 ~ 月 日)

市立 小学校

	日	日	日	日	日	備 考	
	月	火	水	木	金		
行事							
第一校時						反省・感想	
第二校時							
業間							
第三校時							
第四校時							次週に向けて
昼食 昼休み							
第五校時							
第六校時							
放課後							

確認 (サインまたは押印)

実習校指導教員 (メンター)

大学指導教員

大学院生

インターンシップ 実習日誌 様式

第 回

実施日 令和 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :
 実習時間 (時間 分)

<u>A 教育活動のねらい</u>
<u>B 教育活動の内容と方法</u>
<u>C 教育活動の場所</u>
<u>D 活動の成果と反省・課題</u>

総実習時間 (時間 分)

実習校指導教員 (メンター)

実地研究Ⅰ チームコンサルテーション 様式

実施日 令和 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :

A チームコンサルテーションの記録

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

B 気づき, 反省, 感想等

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

[実習指導教員 (メンター) の所見] 実習校指導教員 (メンター)

[大学指導教員の所見] 大学指導教員

実地研究Ⅱ チームコンサルテーション 様式

実施日 令和 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :

A チームコンサルテーションの記録

B 気づき, 反省, 感想等

〔実習校指導教員 (メンター) の所見〕 実習校指導教員 (メンター)

〔大学指導教員の所見〕 大学指導教員

インターンシップ チームコンサルテーション 様式

実施日 令和 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :

A チームコンサルテーションの記録

B 気づき, 反省, 感想等

[実習校指導教員 (メンター) の所見]

実習校指導教員 (メンター)

[大学指導教員の所見]

大学指導教員

実地研究Ⅰ 評価票 様式

小学校教員養成特別コース 氏名 ()

大学院生の成績評価は、次の七項目の評価観点に基づいて実習校指導教員（メンター）（70%）と大学指導教員（30%）が共同で行う。評定は、以下の観点について、S（90-100点）、A（80-89点）、B（70-79点）、C（60-69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。その後、大学院生の実習成果について所見を記述する。

(1) 観点別評価

評価項目	評定尺度
(1) 教職意識	S --- A --- B --- C --- F
(2) 児童理解力	S --- A --- B --- C --- F
(3) コミュニケーション力	S --- A --- B --- C --- F
(4) 計画力・教材研究力	S --- A --- B --- C --- F
(5) 学習指導力	S --- A --- B --- C --- F
(6) 評価力	S --- A --- B --- C --- F
(7) 実習記録	S --- A --- B --- C --- F
総合評価	S --- A --- B --- C --- F

(2) 総合所見

実習校指導教員（メンター）

印

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

立	小学校 校長	印
---	--------	---

【2年制コース】

1 実習の目的

本コースの実習科目(4科目)を履修することによって、これまでに修得した小学校教員としての専門性を伸張させながら、小学校教員として必要な実践的な指導力及び展開力を身につけるとともに、絶えず実践を省察し、自己の実践的な指導力及び展開力の向上を図ることができる探究力や改善力を形成する。それによって、新しい学校づくりの担い手として高い期待に応えうる小学校教員を養成することを目的とする。

2 実習科目

実習科目	単位数	配当年次	実施期間
インターンシップ	2単位	1年次	通年(60時間以上)
学校教育基盤実習	4単位	2年次	11月～12月
小学校指導力向上実習	6単位	2年次	12月～1月
実地研究リフレクションセミナー	2単位	2年次	11月～1月

3 実習校(連携協力校)

実習科目	実習場所
インターンシップ	連携協力校(小学校)
学校教育基盤実習	連携協力校(小学校)
小学校指導力向上実習	連携協力校(小学校)

4 科目別の実習内容, 指導体制, 評価方法等

インターンシップ

(実習内容)

「学校教育基盤実習・小学校指導力向上実習」に先だって、実習校のインターンとして責任を持って教育活動の一端を担いながら、体験的に学修する。その中で、学校行事の準備や運営、学級経営、授業の計画、準備、実施、省察等について、小学校教員として実践的課題となっている事柄について把握する。インターンシップに続く、「学校教育基盤実習」「小学校指導力向上実習」と同一校をフィールドとして積極的に教育活動に参加し、今後取り組みたい研究テーマを探る。

4月より大学でのオリエンテーションと実習校での事前指導を実施する。その際、大学院生は、メンターや大学指導教員と協議しながら期間中の個別実習計画を作成する。例えば、実習課題としては、「学級集団づくりに役立つ学校行事の運営方法」や「学級における生活や学習のルール設定の仕方と生徒指導の在り方」、「つまずき単元における教材研究と発問の在り方」などが考えられるが、なるべく実習課題を焦点化できるようにする。

インターンシップ期間中は、実習校のインターンとして配属学級の教育活動の一端を

責任をもって担い、通年で60時間以上の教育支援活動を行う。期間中の活動は、メンターの指示や指導の下、当該学級にとっても大学院生にとっても有益な活動になるように努める。ただし、6月下旬から7月末までの期間は、教員採用試験の時期と重なるため、計画に組み込まないように配慮する。

活動後は、学生が毎回日誌を記入し、メンターへ提出して指導を受ける。また、インターンシップで得た学びは、大学指導教員へ報告するとともに、2年次の学校教育基盤実習、小学校指導力向上実習に活かす。

(指導計画・体制)

- ・インターンシップの担当リーダーを1名置く。担当リーダーは、インターンシップの全体の企画・運営を担当し、大学院生の全体指導を行う。
- ・大学指導教員は、担当した大学院生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・実習校にメンターを依頼する。
- ・担当リーダーと大学指導教員、メンターの三者が緊密に連携を取り、インターンシップを進める。
- ・各担当の大学院生の個別実習計画については、大学指導教員とメンターと大学院生が協議しながら作成する。
- ・大学院生の成績評価は、実習評価票に基づいてメンターと大学指導教員が共同で行う。

(準備・進め方)

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・実習における学修目標及び実習の実施計画
- ・実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及びメンターの承諾

- ・教育実習総合センターのコーディネーターが、教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・大学指導教員と大学院生、教育実習総合センターのコーディネーターが、実習校を訪問し、理解と承諾を得る。

(3) 各種様式等の作成

- ・個別実習計画
- ・実習日誌
- ・総括レポート

これらを「インターンシップ実習記録／ポートフォリオ」としてまとめる。

(評価方法)

実習日誌は活動後毎回記入し、メンターへ提出すること。

インターンシップが終了した後（60時間を超えた時点）、1週間以内に大学指導教員に実習記録を提出すること。

大学院生の成績評価は、次の7項目の評価観点に基づいてメンター（70%）と大学指導教員（30%）が共同で行う。評定は以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

メンターには、インターンシップが終了した後、評価票を1週間以内に大学に郵送してもらうこととする。

- (1) 実習態度
- (2) 個別実習計画
- (3) 大学院生の実習成果
- (4) 実習校への貢献度
- (5) 小学校教員としての成長度
- (6) 実習記録
- (7) 総括レポート

学校教育基盤実習

（実習内容）

4週間の教育実習を通して、「教育実践研究（アクション・リサーチ）」における研究内容と実習校の研究テーマや指導可能なテーマとのマッチングを行った上で、実践を行うための基盤づくりを行うとともに、教育実践研究（アクション・リサーチ）で取り組む教科の授業に取り組む。（1）公立小学校の教育全般について実地に学び、教科指導、特別活動や総合学習の指導に必要な内容・方法及び教育技術を修得する。また、（2）配属学級の指導教諭の教育活動をAT（アシスタント・ティーチャー）として支援・援助しながら、保護者や地域からのニーズや課題に応じた特色ある教育実践がどのように行われているのか理解する。さらに、（3）自己の教育実践研究（アクション・リサーチ）で取り組む教科の授業を実施することを目的とする。

7～8月に大学でオリエンテーションを行い、その後実習校での事前指導を実施する。その際、大学の修学指導教員（以下、大学指導教員と記す）及び実習校の実習指導教諭（以下、メンターと記す）と大学院生とが協議を行い、個別実習計画を作成する。

11月からの実習では公立小学校の教育全般について実習するが、実習中は配属学級のメンターのAT（アシスタント・ティーチャー）として支援・補助しながら、個別実習計画に基づいて教科指導等の実習を行う。

実習は週4日行い、週1日は大学に戻り「リフレクションセミナー」を通して、4日間の実習で得た成果を省察する。

各週の大まかな実習内容は、以下のとおりである。

第1週：教科指導、特別活動、総合学習のATとして観察又は補助

第2週：教科指導の実習、特別活動と総合学習のATとして補助

第3週：教科指導の実習、特別活動と総合学習のATとして補助

第4週：教科指導の実習、研究授業の実施、特別活動と総合学習のATとして補助

(指導計画・体制)

- ・学校教育基盤実習の実習担当教員(以下担当リーダーと記す)を1名置く。担当リーダーは、学校教育基盤実習の全体の企画・運営を担当し、大学院生に対して、事前・事後の全体指導を行う。
- ・大学指導教員は、担当した大学院生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・原則として大学指導教員1名が実習校2校を担当する。
- ・実習校にメンターを依頼する。
- ・担当リーダーと大学指導教員、メンターの三者が緊密に連携を取り、実習を進める。
- ・各担当の大学院生の個別実習計画については、大学指導教員とメンターと大学院生が協議しながら作成する。
- ・大学指導教員は、実習校に訪問指導を行う。訪問指導では、大学院生の授業や実践の観察を行った後、メンター、大学指導教員、大学院生の三者によるチームコンサルテーションを実施する。
- ・大学院生の成績評価は、実習評価票に基づいてメンターと大学指導教員が共同で行う。
- ・週1日は、大学においてその週の実習の成果を省察する。省察では、大学指導教員が中心となって大学院生を指導し、実習終了後に、リフレクション・レポートを作成させる。作成したリフレクション・レポートは、メンターへポートフォリオとして提出し点検を受けた後、大学指導教員に、個別実習計画や学習指導案等を含めて、一括してファイルに綴じて提出する。その際、授業記録を保存したDVD等があれば添付すること。

(準備・進め方)

- (1) 実習生の個別実習計画の作成
 - ・実習における学修目標及び実習の実施計画
 - ・実習校の状況把握・理解
 - (2) 実習校への説明と校長及びメンターの承諾
 - ・教育実習総合センターのコーディネーターは、教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
 - ・大学指導教員と大学院生、教育実習総合センターのコーディネーターが、実習校を訪問し、理解と承諾を得るとともに、事前の打合せを行う。
 - (3) 各種様式等の作成
 - ・個別実習計画
 - ・学習指導計画(週運営計画表) 4週間分
 - ・実習日誌(16日分)
 - ・学習指導案(授業実習を実施したすべての学習指導案)
 - ・チームコンサルテーションの記録
 - ・総括レポート
- これらを「学校教育基盤実習 実習記録／ポートフォリオ」としてまとめる。

（評価方法）

実習日誌は、毎日記入し、メンターへ提出すること。その際に、メンターの指導内容を大学院生自身が記録し、実習日誌に大学院生が記載する。つまり、実地研究では、メンターの助言や指導に関する文言はすべて大学院生が記載することになる。実習終了後、1週間以内に大学へ実習記録として提出をすること。

大学院生の成績評価は、次の七項目の評価観点に基づいて、メンター（70%）と大学指導教員（30%）が共同で行う。評定は以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

大学指導教員は、実習校への説明時に、評価票をメンターに手渡すこと。メンターには、1週間以内に大学に郵送してもらうこととする。

- (1) 教職意識
- (2) 児童理解力
- (3) コミュニケーション力
- (4) 計画力・教材研究力
- (5) 学習指導力
- (6) 評価力
- (7) 実習記録

小学校指導力向上実習

（実習内容）

6週間の教育実習を通して、「教育実践研究（アクション・リサーチ）」における研究内容と実習校の研究テーマや指導可能なテーマとのマッチングを行った実践としての授業を本格的に実践することによって、課題への取り組みの方法、方策を理解し、自らの実践力を高めるとともに、研究テーマに即した教育方法・教育内容の開発及び評価の力量を形成する。（1）自己の教育実践研究（アクション・リサーチ）で取り組む教科の指導力を高めるとともに、（2）実習校における教科指導、特別活動及び総合学習の指導に加えて、道徳、生徒指導、特別支援教育の実践にも関わり、それらの内容・方法及び教育技術を向上させる。また、（3）一定期間、配属学級の学級担任業務を担うことによって、小学校教員としての自立に向けた実践的指導力を養うことを目的とする。

7～8月に、学校教育基盤実習に関する大学でのオリエンテーションとあわせて、小学校指導力向上実習のオリエンテーションも行い、実習校での事前指導も学校教育基盤実習にあわせて同時に実施する。

その際、大学指導教員及びメンターと大学院生とが協議を行い、学校教育基盤実習とあわせて小学校指導力向上実習についての個別実習計画を作成する。

実習は、学校教育基盤実習と同一校において、教科指導、特別活動、総合学習の指導に加えて、道徳、生徒指導、特別支援教育、学校事務についてもAT（アシスタント・

ティージャー：副担任）として関わり，6週間の実習を行う。

実習内容は，メンター，大学指導教員，大学院生の三者が事前に協議をして設定するが，その際に以下の点を踏まえることとする。

- ・原則として，教科指導は一通り全ての教科の授業を行う。
- ・教科指導のコマ数は，実習校の実態に合わせて，メンターと相談をして決める。
- ・教育実践研究（アクション・リサーチ）で取り組む教科の授業を継続して行う。
- ・実習の第4週目から徐々に学級担任業務を担当し，第5週目には，1週間，終日で学級担任業務を行う。学級担任業務とは，朝の会・終わりの会の運営，給食，休憩，昼休み，放課後，清掃等の指導全般である。ただし，学級通信の作成や日記指導，保護者への対応等，保護者に直接関わるような指導は含まない。
- ・道徳の授業を2コマ行う。
- ・原則として，最終週に研究授業を行う。

実習は週4日行い，週1日は大学に戻り「リフレクションセミナー」を通して4日間の実習で得た成果を省察する。

各週の大まかな実習内容は，以下のとおりである。

第1週：教科指導の実習，特別活動と総合学習の指導への参加

（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

第2週：教科指導の実習と道徳の授業の実習，特別活動と総合学習の指導への参加

（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

第3週：教科指導の実習，特別活動と総合学習の指導への参加

（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

第4週：教科指導の実習と道徳の授業の実習，1日学級担任実習（1日）

第5週：1日学級担任実習

- ・メンターが担当している教科及び道徳などの授業実習を含む。
- ・専科の授業は含まない。専科の授業の時は，学級事務の時間とする。

第6週：教科指導の実習，得意教科による研究授業の実施，特別活動と総合学習の指導への参加（副担任として指導を担当。生徒指導も含む。）

（指導計画・体制）

- ・小学校指導力向上実習の担当リーダーを1名置く。担当リーダーは，小学校指導力向上実習の全体の企画・運営を担当し，大学院生に対して，事前・事後の全体指導を行う。
- ・大学指導教員は，担当した大学院生の実習指導及び訪問指導を行う。
- ・原則として大学指導教員1名が実習校2校を担当する。
- ・実習校にメンターを依頼する。
- ・担当リーダーと大学指導教員，メンターの三者が緊密に連携を取り，実習を進める。
- ・各担当の大学院生の個別実習計画については，大学指導教員とメンターと大学院生が協議しながら作成する。

- ・大学指導教員は、実習校に訪問指導を行う。訪問指導では、大学院生の授業や実践の観察を行った後、メンター、大学指導教員、大学院生の三者によるチームコンサルテーションを実施する。
- ・大学院生の成績評価は、実習評価票に基づいてメンターと大学指導教員が共同で行う。
- ・週1日は、大学においてその週の実習の成果を省察する。省察では、大学指導教員が中心となって大学院生を指導し、実習終了後に、リフレクション・レポートを作成させる。作成したリフレクション・レポートは、メンターへポートフォリオとして提出し点検を受けた後、大学指導教員に、個別実習計画や学習指導案等を含めて、一括してファイルに綴じて提出する。その際、授業記録を保存したDVD等があれば添付すること。

(準備・進め方)

(1) 実習生の個別実習計画の作成

- ・実習における学修目標及び実習の実施計画
- ・実習校の状況把握・理解

(2) 実習校への説明と校長及びメンターの承諾

- ・教育実習総合センターのコーディネーターが、教育委員会を訪問して説明し、あらかじめ理解と承諾を得る。
- ・大学指導教員と大学院生、教育実習総合センターのコーディネーターが、実習校を訪問し、理解と承諾を得る。

(3) 各種様式等の作成

- ・個別実習計画
- ・学習指導計画（週運営計画表） 6週間分
- ・実習日誌（24日分）
- ・学習指導案（授業実習を実施したすべての学習指導案）
- ・チームコンサルテーションの記録
- ・総括レポート

これらを「小学校指導力向上実習 実習記録／ポートフォリオ」としてまとめる。

(評価方法)

実習日誌は、毎日記入し、メンターへ提出すること。その際に、メンターの指導内容を大学院生自身が記録し、実習日誌に大学院生が記載する。つまり、実地研究では、メンターの助言や指導に関する文言はすべて大学院生が記載することになる。実習終了後、1週間以内に大学へ実習記録として提出をすること。

大学院生の成績評価は、次の11項目の評価観点に基づいて、メンター（70%）と大学指導教員（30%）が共同で行う。評定は以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

大学指導教員は、実習校への説明時に、評価票をメンターに手渡すこと。メンターには、1週間以内に大学に郵送してもらうこととする。

- (1) 教職意識
- (2) 児童理解力
- (3) コミュニケーション力
- (4) 計画力・教材研究力
- (5) 学習指導力
- (6) 評価力
- (7) 学級経営力
- (8) 生徒指導力
- (9) 自己改善力
- (10) 連携・協働
- (11) 実習記録

実地研究リフレクションセミナー

(指導計画・体制)

- ・大学指導教員が、担当している大学院生をゼミ形態で指導する。
- ・週1日（原則として金曜日とする）、大学においてその週の実習の成果を省察する。
- ・大学院生の成績評価は、実習評価票に基づいて、大学指導教員が行う。

(準備・進め方)

- (1) 週運営計画を用いて、月曜日から木曜日までのリフレクションをする。
- (2) 次の週の予定を週運営計画で確認する。
 - ・大学指導教員は、2週分の週運営計画を書いているかを確認する。
- (3) 次の週に実施する授業実習の学習指導案を確認する。
- (4) 大学院生は、学習指導案をもとに、授業内容を説明する。
 - ・大学指導教員は、学習指導案の書き方や内容について助言を行う。
- (5) 実習校やメンターからの依頼や連絡はないかを確認する。
- (6) 大学指導教員は、次週に訪問指導がある場合、訪問日時を確認する。
- (7) 実地研究Ⅰ及びⅡで提出する各種様式等の作成の進捗状況を確認する。

(評価方法)

大学院生の成績評価は、次の五項目の評価観点に基づいて、大学指導教員が行う。評定は、以下の観点について、S（90点～100点）A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）の5段階とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

- (1) リフレクションセミナーへの参加態度
- (2) 教職意識・小学校教員としての成長度
- (3) 大学院生の実習成果

- (4) 実習記録
- (5) 総括レポート

5 実習資料の様式

(1) 実習の個別計画表

- ・ インターンシップ 個別実習計画 様式……………様式(1)-③
- ・ 学校教育基盤実習 個別実習計画 様式……………様式(1)-①b
- ・ 小学校指導力向上実習 個別実習計画 様式……………様式(1)-②b

(2) 学習指導計画（週運営計画）・実地研究Ⅰ及びⅡ共通

- ・ 学習指導計画 様式……………様式(2)-①

(3) 実習日誌

- ・ インターンシップ 実習日誌 様式……………様式(3)-⑤
- ・ 学校教育基盤実習 実習日誌（月～水）様式……………様式(3)-①b
- ・ 学校教育基盤実習 実習日誌（木）様式……………様式(3)-②b
- ・ 小学校指導力向上実習 実習日誌（月～水）様式……………様式(3)-③b
- ・ 小学校指導力向上実習 実習日誌（木）様式……………様式(3)-④b

(4) チームコンサルテーション

- ・ 学校教育基盤実習 チームコンサルテーション 様式……………様式(4)-①b
- ・ 小学校指導力向上実習 チームコンサルテーション 様式……………様式(4)-②b

(5) 総括レポート

- ・ インターンシップ 総括レポート 様式……………様式(5)-④
- ・ 学校教育基盤実習 総括レポート 様式……………様式(5)-①b
- ・ 小学校指導力向上実習 総括レポート 様式……………様式(5)-②b
- ・ 実地研究リフレクションセミナー 総括レポート 様式……………様式(5)-③

(6) 評価票

- ・ インターンシップ 評価票 様式……………様式(6)-④
- ・ 学校教育基盤実習 評価票 様式……………様式(6)-①b
- ・ 小学校指導力向上実習 評価票 様式……………様式(6)-②b
- ・ 実地研究リフレクションセミナー 評価票 様式……………様式(6)-③

インターンシップ 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

名 前		学籍番号	
大学院生連絡先	(TEL)		
実習期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 (TEL)		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校指導教員 (メンター)			
大学 担当リーダー	(研究室TEL)		
大学指導教員	(研究室TEL)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数：	学級数：	教員数：
教育目標			

特色ある 教育の取組	
地域性	
その他 特記事項	
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標	
実習課題 1	
実習課題 2	
実習課題 3	
実 習 の 実 施 計 画	

実習校指導教員（メンター）

大学指導教員

学校教育基盤実習 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

名 前		学籍番号	
大学院生連絡先	(TEL)		
実習期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 (TEL)		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校指導教員 (メンター)			
大学 担当リーダー	(研究室TEL)		
大学指導教員	(研究室TEL)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数： 学級数： 教員数：		
教育目標			

特色ある教育の取組			
地域性			
その他特記事項			
大 学 院 生 の プ ロ フ ィ ー ル			
性 別	男性 ・ 女性	年齢	歳
教員免許	有 ・ 無 （免許種： ）		
社会人経験	有 ・ 無 （職種： ）		
資格・特技			
自己アピール			
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標			
第1週			
第2週			
第3週			
第4週			

実習校指導教員（メンター）

大学指導教員

小学校指導力向上実習 個別実習計画 様式

小学校教員養成特別コース

名 前		学籍番号	
大学院生連絡先	(TEL)		
実習期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
実習小学校名			
実習校 (住所・ 電話番号)	〒 (TEL)		
配属学級	学年 組		
学校長			
実習校指導教員 (メンター)			
大学 担当リーダー	(研究室TEL)		
大学指導教員	(研究室TEL)		
実 習 校 の 概 要			
主な沿革			
学校規模	児童数：	学級数：	教員数：
教育目標			

特色ある 教育の取組	
地域性	
その他 特記事項	
実 習 課 題 及 び 実 習 目 標	
第1週	
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	
第6週	

実習校指導教員（メンター）

大学指導教員

第 週 年

学 習 指 導 計 画 (月 日 ~ 月 日)

市立 小学校

	日		日		日		日		日		備 考
	月	火	水	木	金						
行事											反省・感想
第一校時									第1時限		
第二校時									第2時限		
業間											
第三校時									第3時限		
第四校時									第4時限		
昼食 昼休み									第5時限		
第五校時											
第六校時											
放課後											
											次週に向けて

確認 (サインまたは押印)

実習校指導教員 (メンター)

大学指導教員

大学院生

インターンシップ 実習日誌 様式

第 回

実施日 令和 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :

実習時間 (時間 分)

A 教育活動のねらい

B 教育活動の内容と方法

C 教育活動の場所

D 活動の成果と反省・課題

総実習時間 (時間 分)

実習校指導教員 (メンター)

学校教育基盤実習 チームコンサルテーション 様式

実施日 令和 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :

A チームコンサルテーションの記録

B 気づき, 反省, 感想等

[実習指導教員 (メンター) の所見] 実習校指導教員 (メンター)

[大学指導教員の所見] 大学指導教員

小学校指導力向上実習 チームコンサルテーション 様式

実施日 令和 年 月 日 (曜日) 時間 : ~ :

A チームコンサルテーションの記録

B 気づき, 反省, 感想等

[実習校指導教員 (メンター) の所見] 実習校指導教員 (メンター)

[大学指導教員の所見] 大学指導教員

小学校教員養成特別コース（3年制コース）におけるカリキュラム配置モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 年 次	小学校教員免許状取得必修科目						小学校教員免許状取得必修科目						
							専門科目（1科目，2単位）						
							「教育実地基礎研究Ⅰ（2単位）（選択）」						
2 年 次	小学校教員免許状取得必修科目						小学校教員免許状取得必修科目						
	専門科目（6科目，12単位）						専門科目（1科目，2単位）						
	「学級づくりと教育的関係の構築」(2単位) (選択) 「特別活動指導と自治的文化的活動の展開」(2単位) (選択) 「教科の授業づくりと授業分析・評価」(2単位) (選択) 「総合学習の創造過程と評価法」(2単位) (選択) 「授業における実践的評価論」(2単位) (必修) 「障害のある児童への指導と支援方法」(2単位) (必修)						「教育実地基礎研究Ⅱ（2単位）（選択）」 実習科目「実地研究Ⅰ」（4単位）(4W) [連携協力校] 実習科目「実地研究Ⅱ」（6単位）(6W) [連携協力校] ※R2以前の入学者は実地研究Ⅱは8単位(8W) 実習科目「実地研究リフレクションセミナー」（2単位）[本学]						
		教員採用試験						※「実地研究Ⅰ」「実地研究Ⅱ」に並行して週1日は大学でセミナーを履修する。					
3 年 次	共通基礎科目（15単位）						共通基礎科目（5単位）						
	専門科目（6科目，6単位）						専門科目（5科目，5単位）						
	「教科・領域の内容・指導法研究Ⅰ（国語科）・（音楽科）」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅱ（算数科）・（図工科）」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅲ（家庭科）」(選択/隔年開講) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅵ（小学校英語）」(選択)						「教科・領域の内容・指導法研究Ⅳ（理科）・（体育科）」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅴ（生活科・総合学習）」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅲ（社会科）」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅵ（特別の教科 道徳）」(選択)						
	専門科目（1科目，4単位）						「教育実践研究（アクション・リサーチ）」(4単位：通年) (必修)						
	実習科目「インターンシップ」（2単位：通年）[連携協力校]						※連携協力校と協議の上，年間60時間の実習を行う。						
	教員採用試験												

小学校教員養成特別コース（2年制コース）におけるカリキュラム配置モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	共通基礎科目（15単位）					共通基礎科目（5単位）						
	専門科目（3科目，6単位） 「特別活動指導と自治的文化的活動の展開」(2単位)(選択) 「教科の授業づくりと授業分析・評価」(2単位)(選択) 「総合学習の創造過程と評価法」(2単位)(選択)					専門科目（6科目，7単位） 「教育実地基礎研究Ⅰ(2単位)(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅳ(理科)・(体育科)」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅴ(生活科・総合学習)」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅲ(社会科)」(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅵ(特別の教科 道徳)」(選択)						
	実習科目「インターンシップ」（2単位：通年）〔連携協力校〕 ※連携協力校と協議の上，年間60時間の実習を行う。											
	教員採用試験											
2 年 次	専門科目（9科目，12単位） 「授業における実践的評価論」(2単位)(必修) 「障害のある児童への指導と支援方法」(2単位)(必修) 「学級づくりと教育的関係の構築」(2単位)(選択) 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅰ(国語科)・(音楽科)」(選択)* 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅱ(算数科)・(図工科)」(選択)* 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅲ(家庭科)」(選択/隔年開講)* 「教科・領域の内容・指導法研究Ⅵ(小学校英語)」(選択)* *印は，1年次でも履修可能					専門科目（1科目，2単位） 「教育実地基礎研究Ⅱ(2単位)(選択)						
						実習科目 「学校教育基盤実習」 (4単位)(4W) 〔連携協力校〕		実習科目 「小学校指導力向上実習」 (6単位)(6W) 〔連携協力校〕				
						実習科目 「実地研究リフレクションセミナー」(2単位)〔本学〕 ※「学校教育基盤実習」「小学校指導力向上実習」に並行して週1日は大学でセミナーを履修する。						
	専門科目（1科目，4単位） 「教育実践研究(アクション・リサーチ)」(4単位：通年)(必修)											
	教員採用試験											